



令和5年度 推進状況報告書



令和6年6月

横浜市緑区役所 横浜市緑区社会福祉協議会
緑区地域ケアプラザ

第4期緑区地域福祉保健計画 「みどりのわ・ささえ愛プラン」 推進状況報告書

活用の仕方



第4期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」は、各地区の特徴を踏まえた「地区別計画」、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ等が地域と協働し取り組む「区域計画」で構成されています。

地域の課題解決に向け、区民・事業者・行政が協働して計画を推進していますが、その概要を年度毎に「推進状況報告書」としてまとめ、冊子を発行しています。

1 計画の概要を知りたい！

- 「第1章 計画の概要」をご参照ください
緑区の地域福祉保健計画の経過や計画の内容、特徴などを紹介しています。

2 自分の住んでいる地域の取組を知りたい！

- 「第2章 地区別計画」をご参照ください
区内11地区それぞれの取組などをまとめています。

3 緑区全体の取組や推進状況について知りたい！

- 「第3章 区域計画」をご参照ください
「地区別計画」における各地区共通の課題に対応する「重点項目A」と、区域での課題に対応する「重点取組B」の主な取組などを紹介しています。

4 他にどんな情報が載っていますか？

- 「参考」ページに地域ケアプラザの一覧を載せています。
福祉や保健に関することや、地域活動に関する情報提供などをして
いる身近な施設としてご利用ください。

令和5年度 推進状況報告書

— 目次 —



第1章 計画の概要

1	地域福祉保健計画とは	1
2	第4期緑区地域福祉保健計画	1

第2章 地区別計画

1	地区別計画とは	3
2	令和5年度地区別計画の推進について	5
	東本郷地区	7
	鴨居地区	9
	竹山地区	11
	白山地区	13
	新治中部地区	15
	三保地区	17
	山下地区	19
	新治西部地区	21
	十日市場団地地区	23
	霧が丘地区	25
	長津田地区	27

第3章 区域計画

	「区域計画」の推進について	29
	各重点項目の振り返り	31
	参考指標について	36
	みどりのわ・ささえ愛プラン講演会（第42回社会福祉大会第2部）	38

(表紙中面) 推進状況報告書 活用の仕方
(裏表紙中面) 参考・区内の地域ケアプラザ

第1章 計画の概要

1 地域福祉保健計画とは

地域福祉保健計画は、誰もが身近な地域で安心して暮らせるまちをつくるため、地域の福祉保健を推進するための基本理念や課題を明らかにし、課題解決に向け、市民・事業者・行政が協働で取り組む計画で、社会福祉法第107条に基づきます。横浜市には、市全体の計画である市地域福祉保健計画（以下、「市計画」という。）と、区ごとに策定する区地域福祉保健計画（以下、「区計画」という。）があります。

また、地域福祉の推進を目指し、地域住民・福祉保健等の関係団体や事業者等が地域で主体的に進めていく計画として、社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画があります。

それぞれの計画は相互に補完・連携し、役割分担をしていくものであることから、横浜市では、わかりやすい計画となるよう策定のプロセスを共有し、整合性のとれた一つの計画として一体的に策定しています。これにより、行政や市民、地域福祉活動団体、ボランティア、事業所など、地域に関わる人々にとって、より協働しやすく、より実効性のある計画となっています。

緑区でも、緑区地域福祉保健計画と緑区地域福祉活動計画を一体的に策定しています。

2 第4期緑区地域福祉保健計画について

ア 計画期間

令和3年度から令和7年度

イ 基本理念及びその考え方

基本理念「誰もが安心して暮らし続けられる緑区をめざして」は、全体目標（目指す姿）「一人ひとりが主役・共に支えあう つながりのあるまちづくり」とともに計画全体の総合的な指針として、第3期計画のものを継承することとしました。

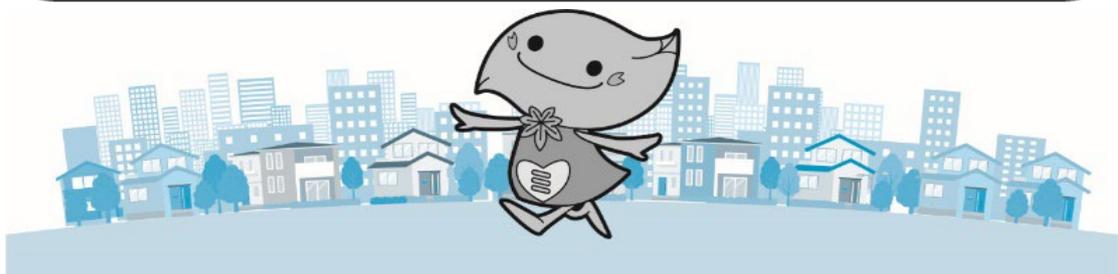
区民の誰もが、年齢を重ねても、障害があっても、身近な地域で安心して暮らし続けられるまちづくりの実現を目指していくことが必要です。区民一人ひとりが、自分の持つ力を十分に発揮し、心豊かに充実した生活を送ることができるよう、区民、団体、事業者等が協働で、共に支え合い、区民同士のつながりのあるまちづくりを進めていきます。

ウ 地区別計画と区域計画の関連性

基本理念の実現を目指して、「地区別計画」及び「区域計画」を推進します。「地区別計画」については、各地区の特性に合わせた重点取組や具体的な活動を掲載しています。

一方、「区域計画」の重点項目については、各地区共通の課題解決のための重点項目としての「地区別計画を支える取組」と、区域の課題解決のための重点項目としての「区域全体での取組」の2つの性格のものを掲載しています。

なお、第4期計画では「地区別計画」と「区域計画」の関わりをより強調することにより、各地区共通で挙げられている課題の解決のために「区域計画」が支援することを明確化する構成としました。



④ 白山地区

白山の自助・共助・近助による安全・安心な
コミュニティづくり～白山の絆で団結しよう！～

- 重点
取組 **1** 〈福祉〉
孤立化を防ぎ、つながりを広げよう
- 重点
取組 **2** 〈子どもの健全育成〉
子育てしやすい地域づくりをめざそう
- 重点
取組 **3** 〈防犯〉
地域の防犯力を高めよう
- 重点
取組 **4** 〈防災〉
地域の防災力を育もう
- 重点
取組 **5** 〈環境〉
ごみ・美化・地球温暖化などの課題に地域で取り組もう

⑥ 三保地区

ゆるやかな見守りや支え合いのできる
仲間づくり

- 重点
取組 **1** 地域でのつながりを大切に、活動を活発
にしたい
- 重点
取組 **2** 活動・交流を通じた見守り・支え合い

⑧ 新治西部地区

あいさつを元気に交わそう！
笑顔あふれ 集い楽しむ 新治西部

- 重点
取組 **1** 地域の中で顔の見える関係を築き、交流を
深めていきます
- 重点
取組 **2** 地域情報を多くの住民に届けられるように
していきます
- 重点
取組 **3** 次世代に活動をつなげられるよう取り組みます

⑩ 霧が丘地区

防犯・防災・教育 日本一の街 霧が丘

- 重点
取組 **1** 活動できる機会・場を通してつながりを
大切にすまちづくり
- 重点
取組 **2** 安全・安心・健康のまちづくり

⑤ 新治中部地区

次世代まで安心して笑顔で
暮らし続けられるまち

- 重点
取組 **1** 防犯・防災に強い安全・安心のまちづくり
- 重点
取組 **2** 住民同士の顔の見える関係が築かれた
まちづくり
- 重点
取組 **3** 次世代につながるまちづくり

⑦ 山下地区

地域のつながりや支え合いのある誰もが
元気で暮らし続けられる街をめざして

- 重点
取組 **1** 住民相互の見守り、見守られる支え合いの
まちづくり
- 重点
取組 **2** 地域での「つながり」を大切に、「健康」で元気に
暮らし続けられるまちづくり
- 重点
取組 **3** 必要な「情報」が入手しやすいまちづくり

⑨ 十日市場団地地区

誰もが「住んで良かった」「住み続けたい」まち
十日市場団地

- 重点
取組 **1** 地域での「見守り」を進め、支え合える地域に
していきます
- 重点
取組 **2** 地域活動を充実させ、地域の中で「つながり」を
つくっていきます
- 重点
取組 **3** 地域の情報の発信に取り組みます

⑪ 長津田地区

向こう三軒両隣、様々な世代がおたがいさまで
つながる長津田のまち、笑顔と元気は地域の
宝物、いいよね長津田！ 希望のまちへ！

- 重点
取組 **1** おたがいさまの輪を大切に、地域の身近な
ところでのつながりづくり
- 重点
取組 **2** 情報の受発信・伝達の工夫
- 重点
取組 **3** 次世代を見据えた住民同士の交流

2 令和5年度 地区別計画の推進について

(1) 地区別計画推進策定委員会開催状況

東本郷地区

- 第1回 令和5年6月24日(土)
テーマ:
3つの専門委員会の具体的な取組、
ひがほん郷まつりについて
- 第2回 令和5年12月13日(水)
テーマ:
3つの専門委員会からの報告、
ひがほん郷まつりの報告、意見交換

鴨居地区

- 第1回 令和5年7月15日(土)
テーマ:
「鴨居チョイボラ」の拡大・拡充に
向けた意見交換
- 第2回 令和5年12月9日(土)
テーマ:
「鴨居チョイボラ」の拡大・拡充、スマホ
講座について

竹山地区

- 第1回 令和5年9月27日(水)
テーマ:
担い手軽減に向けた取組、自治会の
取組の工夫や困りごとについて
- 第2回 令和6年2月2日(金)
テーマ:
「今 自分の立場でできること」に
関する意見交換

白山地区

- 第1回 令和5年6月24日(土)
テーマ:
重点取組1～5についての活動報告、
意見交換
- 第2回 令和5年11月25日(土)
テーマ:
みんなが気軽に集まれる居場所の共
有、周知に関する活動報告、意見交換

新治中部地区

- 第1回 令和5年7月12日(水)
テーマ:
「住民同士の顔の見える関係が築か
れたまちづくり」に関する意見交換
- 第2回 令和6年2月1日(木)
テーマ:
「次世代につながるまちづくり」に
関する意見交換

三保地区

- 第1回 令和5年8月19日(土)
テーマ:
「支え合いのできる仲間づくりの
ために」に関する意見交換
- 第2回 令和6年2月10日(土)
テーマ:
「日頃のちょっとした困りごとから地域につ
ながっていくために」に関する意見交換

東本郷地区

<地区> 東本郷1～6丁目、東本郷町

【活動の概要】

東本郷地区では、「地域が息づき、みんなが安心・安全を感じ、住んでよかったと思えるまち東本郷」を目指して様々な取組を進めています。

地域とのつながりづくりを進めていくために行ってきた、「ひがほん郷まつり」をはじめとした地区全体で行う行事などは、今回から制限なしで行うこととし、たくさんの方が参加しました。

また「高齢者」、「こども・子育て」、「健康づくり」についての各専門委員会では、地域の課題の共有、解決に向けた検討や取組が進められています。

今後は、各専門委員会と地域の様々な団体や機関が、一緒になって取組を進める工夫などについても検討していく予定です。

地域全体で協力・連携

交流の場

推進組織

東本郷地区の取組紹介

【重点取り組み & 具体的な活動】

重点取り組み 1

これからも、安心・安全な地域でつながり、支え合い、一緒に楽しみを共有します。

11月5日、東本郷小学校で「第11回ひがほん郷まつり」を開催し、約2000人が来場しました。ひがほん郷まつりは、「0才から100才までの人が集えるまつり」を掲げて行われていますが、校庭では、東本郷の町の人をだしで幸せにすることを目的に活動を始めという同小5年3組おいしいだし研究所が作った「だしを味わう大根おでん」を販売。体育館では神奈川県警音楽隊の演奏をはじめ、城郷中吹奏楽部の演奏、同合唱部や演劇部などの発表が行われました。

また、4年3組児童によるクイズ大会なども行われました。コロナが下火となり、疎遠となってしまった地域の密接な交流を取り戻すべく、従来の規模での開催となりました。

今回は小中学生が積極的に参加してくれ、地域で活動している多くの団体が日頃の成果を発表する場として、また、様々な世代の交流の場として開催されました。



重点取り組み 2

地域の情報を誰もが入手しやすくします。

【具体的な活動】

従来の回覧・掲示板に加え、東本郷地区社会福祉協議会による「社協ニュース」のタイムリーな発行とホームページの充実を図りました。



地区別計画推進策定委員会の様子 崎詰連合自治会長と名取地区社協会長 地区社協ニュース 地区社協HP

重点取り組み 3

テーマ別の課題解決に向けて、地域の団体が連携して取り組みます。

【具体的な活動】

○健康づくり委員会

- ・ラジオ体操に参加している方への普及啓発に、健康づくり委員会の PR タオルを配布しました。
- ・ひがほん郷まつりでは、保健活動推進員と協働で健康チェック、体力測定を実施しました。
- ・12月15日、健康講座をケアプラザで開催しました。今後も健康づくりイベントとして開催する予定で、今後は、全ての年齢層の健康づくりに寄与する活動を行っていく予定です。

○こども子育て委員会

- ・地域内の掲示板を活用して活動「朝ごはんを食べる会」の PR を行っています。
- ・参加者が増えているが、参加してほしい子が来ていないように感じています。
- ・中学校の子供にはお弁当を作ったりもしています。
- ・食材が不足気味でしたが、民生委員の定例会から寄付をもらうことができフードバンクなども利用しています。

○高齢者支援委員会

- ・今年度は緩やかな見守りをテーマにして取り組んでいます。
- ・6月に認知症の勉強会を行い「みんなが認知症になる」「認知症になると必ず施設に入るわけではない」ということを学びました。
- ・11月に「ふれあいのつどい」を開催し、講師を招いて詐欺など騙されないようにとお話ししました。



健康教室の様子



認知症勉強会



ラジオ体操の参加者

鴨居地区

<地区>鴨居1～7丁目、鴨居町

◆活動の概要◆

～「地域で支え合い、つながりを大切にするまち」を目指した活動～

高齢者を地域で支えるためのチョット手助けボランティア「鴨居チョイボラ」活動は、「業者に頼むほどではないし、かといって無償では頼みにくい」そんな方々を住民相互で助ける仕組みです。

これまでの間、チョイボラ登録者(サポーター)の増やし方やサービス内容、利用料等について様々な場で話し合いを行い、1年間の試行期間を経て、令和元年度から本格実施となりました。

5年度は、令和4年9月に実施した「手伝ってほしいことアンケート」の結果をもとに、7月からメニューと対象者を拡大しました。さらに、アンケートの回答で希望の多かった「スマホ・パソコンの操作」について、「いきいきサロン鴨居」と連携して「スマホ相談会」を開催しました。令和5年6～8月の試行実施を経て、11月からは毎月開催し、自治会員の新たな交流の場となっています。

また、民生委員の支援活動がきっかけとなり、ケアプラザ、地区社協、自治会等と協力して発足した「鴨居こども食堂ぱくぱく」も4年目となり、「誰でも立ち寄れる地域の居場所」として定着してきました。温かくおいしいご飯が好評で、子どもから大人まで利用者も増え、人の繋がりも生まれています。

キーワード

見守り・
支え合い

助け合い
ボランティア



鴨居地区の取組紹介

『鴨居チョイボラ』スマホ相談会



自治会費納入時にステッカーと一緒にマグネットも配布します。

昨年度行った全戸アンケートをもとに、今年度「鴨居チョイボラ」では、新しい取り組み『スマホ相談会』をスタートしました。スマホを教えることができるサポーターの皆さんに集まっていただき、毎月第2日曜日に開催されている「いきいきサロン鴨居」で『スマホ相談会』を実施。これまで70名を超える参加があり、地域住民の交流の場としても賑わっています。



「LINEで写真を送りたい」という相談から「動画の編集をしたい」という相談まで、様々な依頼があり、サポーター同士も協力しながら対応しました。

今年度は鴨居地区の方を対象に『スマホ相談会』を実施しましたが、今後は地区を制限せずに開催する予定です。

今後も皆さんの意見を取り入れながら、鴨居チョイボラを進めていきます。

鴨居こども食堂 ぱくぱく

令和元年10月から鴨居地区民生委員児童委員協議会が中心となりスタートした「ぱくぱく食堂」。活動も4年目に入り利用者も増えてきました。鴨居地区をはじめ近隣の地区からもボランティアさんが集まり、多い時には60食を超える食事を提供しています。

ぱくぱく食堂

みんなでご飯を食べると楽しいよ
わいわい・おしゃべり・にぎやかに
みんなの居場所「ぱくぱく食堂」に集まれ！

コロナウイルスの感染状況により、持ち帰りのみにする場合があります。

日時 毎週水曜日 17:30~19:00
お車の方 17:30~18:30
持ち帰りの方 18:00~19:00

場所 鴨居地域ケアプラザ 多目的ホール
参加費 ごとち100円（中学生まで）
大人 300円

申込み 裏面の申込書に記入し、注文したい日の2日前までに、ケアプラザまでお申し込みください。

「ぱくぱく食堂」とは…
鴨居地区民生委員児童委員協議会と鴨居地区民生委員児童委員協議会が協力して、活動しているこども食堂です。鴨居地区以外にも近隣の地区にも、活動しています。申込方法等、詳しくはチラシをご覧ください。

お問い合わせ・お申し込み
鴨居地域ケアプラザ
住所：鴨居町南郷5-29-8
TEL：045-930-1122
担当：伊藤 聖恵さん

〒245-0291 東京都大田区eee 南郷5-29-8 ぱくぱく食堂の活動を実施しています。



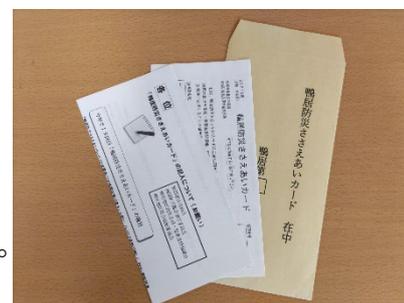
野菜の寄付もいただきました！

「ぱくぱく食堂」では、『おいしいご飯を作ること！』をモットーに活動を行っています。「おいしいご飯を食べて笑顔になってもらうこと」を大切にしながら、仕事、家事、育児に追われている保護者の方がくつろげる時間になるように、時にはお話を聞いたり、時には見守ったりしながら活動を続けています。

今後はスタッフ、ボランティアさんが無理なく活動を続けられるようにしながら、「ぱくぱく食堂」を多くの方に知ってもらい、つながりを必要としている家庭にも届くようにしていきたいと思っています。

鴨居防災ささえあいカード

鴨居地区では「鴨居連合自治会」「地域防災拠点運営委員会」「鴨居地区民生委員児童委員協議会」「鴨居地区社会福祉協議会」の4者で、『鴨居防災ささえあいカード』の取組を実施しています。状況が年々変化するため、毎年情報更新を行っています。



鴨居防災ささえあいカードとは…

私たちの中には、お年寄りや障害のある人、乳幼児や妊産婦など、災害が起きた時に何らかの支援が必要な人達があります。その方々を事前に把握することによって、近隣の助け合いのもとに、救出・避難誘導が速やかに進むよう4者が協力して行っている取組です。

竹山地区

<地区>竹山1～4丁目

◆活動の概要◆ ～「次世代まで安心して暮らし続けることができるまち」を目指した活動～

竹山地区では、高齢化率45.4%(令和5年3月現在)と高齢化が進むなか、「安全に安心して仲良く暮らせる街」を目指し、既存の取組の推進・新たな取組を検討しています。地域の宝である子どもたちのために、様々な団体が協力して始めた「竹山宿題応援団」は、子どもたちが学生をはじめとするボランティアさんと交流する良い機会にもなっています。「買い物に困っている」という住民の声に対し、地区全体で話し合いを行い「移動販売」がスタートしています。今年度は新しい拠点も増え、移動販売の場所が地域住民の交流の場・見守りの場になっています。これらの取組は、住民皆が仲良く暮らせる街の取組です。

キーワード

地区内の
連携

顔の
つながり

多世代の
つながり

交流の場

竹山地区の取組紹介

移動販売 ～ 移動販売の拠点が増えました ～

竹山地区5か所に来ていた移動販売が、今年度は協力スーパーが増えたことにより、毎週水曜日(2か所)、金曜日(5か所)に増えました。竹山地区は高齢化率が45%を超えており、5年、10年先を考えるととても大事な取組です。

また、移動販売は毎週来るため、地域住民の交流の場にもなり、また見守りの場にもなっています。各自治会に協力していただきながら進めていく、重要な取組の一つです。



竹山宿題応援団 ～ 子どもたちの笑顔のために ～

竹山小学校3年生を対象に行っている「竹山宿題応援団」も活動を始めて2年が経ちました。今年度も元気いっぱいの子供たちが参加し、宿題や国語・算数のプリントに挑戦しています。

夏休みには、商店街にある「神大食堂」を開放し、3年生以外の子供たちの学習支援も行いました。普段接することのない大人や大学生たちとの交流は、子供たちにとって良い経験になったと思います。



竹山地区での新たな取組に向けて

～ みんなでできること ～

今年度2回行われた竹山地区別計画推進策定委員会の中で、重点取組1を進めるにあたって委員の皆さんと様々な意見交換を行いました。

《重点取組1》

様々な地区活動やボランティア活動等の体制づくりを進め、担い手の負担軽減に取り組めます。



コロナ禍を経て様々な地域活動が再開されたこともあり、高齢者サロンと子どもたちとの交流ができないか。活動メンバーを増やすために、連合広報紙を活用しPRをできないか。ふれあいサロン竹多久で、若い世代から高齢者まで参加できるイベントを開催できないか等、活発な意見交換が行われました。

これらの意見をもとに、次年度はできることから実現に向けて取り組んでいきます。

今後の展望

～ みんなが集える居場所づくりを ～



竹山地区ではこれまで多くの居場所がありました。コロナ禍で解散した活動もありますが、新しく始まった活動もあります。これらの活動が継続できるように、みんなで協力しながら応援していきます。



「元気会」「いちょうの会」

竹山地区にお住まいの高齢者を対象にしたサロン。毎回様々な催し物を企画し参加者の皆さんに楽しんでもらっています。



「カフェぶらり」

認知症の方をはじめどなたでも参加できるサロン。ゆったりとおしゃべりを楽しめます。ケアプラザの職員も参加しているため介護保険の相談もできます。

「神大食堂」

月曜日は「カレー食堂」、火・木曜日は「健康体操教室」、水・金曜日は「カフェ」竹山地区の新たな交流の場です。



白山地区

<地区>白山1～4丁目

◆活動の概要◆ ～「孤立化を防ぎ、つながりを広げよう」を目指した活動～

白山地区では、5つの重点取組を相互に関連させながら、住民同士のつながり合いや、地域の中でのゆるやかな見守りネットワークづくりに取り組んでいます。

今年度は、コロナ禍で数年にわたり中止を余儀なくされていた「白山まつり」を復活させることができました。子どもたちだけでも100人ほどが参加し、電子工作などを楽しみました。地域の皆さんが触れ合い、交流できる場を増やし、白山地区の絆を深めています。

ささえ愛プランの取組として、白山地区では「福祉」、「子どもの健全育成」、「防犯」、「防災」、「環境」の5つの重点取組のテーマとして、さまざまな活動状況について報告、意見交換を行いました。これをきっかけに、白山地区のイベント情報を掲載したイベントカレンダーを作成することになりました。今後、「自治会の掲示板」に掲示する予定です。これからも一層住みたい街を目指して、安全・安心のコミュニティづくりに取り組んでいきます。

キーワード

多世代の
つながり

交流の場

見守り

白山地区の取組紹介

重点取組 1 「孤立化を防ぎ、つながりを広げよう」

イベントカレンダーの作成に向けて



重点取組 1「孤立化を防ぎ、つながりを広げよう」について、毎月開催している推進委員会の中で、どう取り組んだら良いのかをみんなで話し合いました。まずは、地域で行われている様々な活動について、いつ、誰が、どんな活動をしているのか知るために、各団体・自治会に依頼し、情報収集を行いました。

これらの情報は、住民同士のつながりを広げるためにはとても貴重な情報になるため、どう伝えていくか検討した結果、イベントカレンダーを毎月発行することになりました。

また、若い世代に向けては、白山連合自治会のホームページにイベント情報を掲載するなどし、発信していく予定です。

自分では情報を入手できない方のために、団体情報をまとめた冊子も今後作成していく予定です。

新しい団体の立ち上げ「白山健康福祉マージャン」



「地域とのつながりがあまりなく、麻雀が好きな方がいる。その方が参加できる居場所はないか」という相談からスタートした麻雀サークル探し。白山地区ではその方が参加できる居場所を見つけることができませんでしたが、民生委員さんをはじめとした賛同者の皆さんの力により「白山健康福祉マージャン」という新しい団体を立ち上げました。毎月第2、4火曜日の午前中に、白山自治会館で活動をしています。



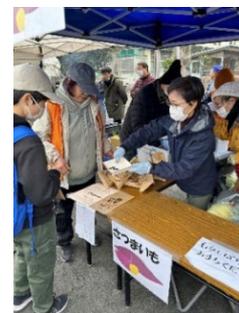
麻雀を行う前に、ちょっとした脳トレを行ったり、休憩時間にもラジオ体操を行ったりと、和気あいあいと活動し、新たな居場所とつながりを作ることができました。



交流の場の再開「白山まつり」



コロナ禍で開催を見合わせていた「白山まつり」を4年ぶりに開催しました。当日はあいにくの雨でしたが、各団体が出店したり、ハイテクパークの中にある「村田製作所」にも協力していただいたり、久しぶりの大きなイベントで皆さんの笑顔があふれていました。



情報の発信「白山連合自治会ホームページの充実」

白山地区は若い世代も多いため、幅広い世代に情報が行き届くように、様々な情報を、ホームページを使い、発信しています。

今年度は「書初め・川柳大会」の募集もホームページを活用しました。

今後もイベント情報からお役立ち情報まで、さまざまな情報を発信していきます。

白山連合自治会ホームページはこちらから



新治中部地区

<地区>

台村町、森の台、寺山町、中山1～6丁目、上山1～3丁目

◆活動の概要◆ ～「次世代まで安心して暮らし続けることができるまち」を目指した活動～

新治中部地区では、「地域の子は地域で守り育てる」を合言葉に、地区連合全体で取組む多世代交流イベント『地域ふれあいフェスティバル』、子どもや親世代の防犯・防災力の向上、次世代の人材育成を目指し、小学校・中学校と協力・連携して『防犯・防災キャッチフレーズ』に取り組んでいます。

また、地区別計画推進策定委員会では、ゆるやかな住民同士のつながりづくりについて(第1回)、地域行事への参加促進の取組及び後継者の育成について(第2回)、意見交換を行いました。参加した方からは、「活動を楽しくやろう」という共通した意見がありました。

今後も行事を通して、普段から顔の見える関係づくり、後継者育成をしながら”楽しく”自助・共助の取組を進めていきます。

キーワード

地区内の
連携

防犯・
防災

多世代の
つながり

交流の場

新治中部地区の取組紹介



「新治中部地区地域ふれあいフェスティバル」を開催しました!

◆ 第24回地域ふれあいフェスティバルの報告 ◆

昨年に続き、中学1年生に防災・小学5年生に防犯のキャッチフレーズを募集しました。

中学生247作品・小学生236作品の応募があり、最優秀作品として4作品が選ばれ、そのうち2作品に『地域』の文字が入っており、子ども達の地域への想いや関心の高さが伺えました。



古内 敏子氏 (中山自治会 副会長)

今年初の試みで最優秀賞受賞者4名(3小1中校より1名選出)に標語に込めた想いを発表してもらった。それらの「この街が好き・自分たちの手で守ろうという想い」に、嬉しく頼もしく感じた限りでした。

ささえ愛プランの目標の「防犯・防災に強い街づくり」については毎年児童生徒に標語を通して考えてもらっており、「次世代につながる街づくり」の一助になると確信しています。若い世代(特に保護者)の自治会活動への関心・参加を如何に広めていくか、この街を愛しこの街に住みたいという人が増えていくことが今後の課題です。

今年度、工夫したところ・力を入れて取り組んだこと

① 吹奏楽部の中学生が演奏で表彰を盛り上げました

当日は、吹奏楽部の中学生が、ボンボンなどを使用した振り付けとともに演奏で表彰式を盛り上げてくれました。また、前日から会場の準備や当日の片付けも地域と一緒に協力して行うことができました。



② 各自治会で学校別に作品の選考を担当しました

作品選考を防災拠点の自治会ごととしたことで、表彰された作品以外も、多くの方々に見てもらう機会となり、児童・生徒と地域とのつながりが生まれたと思います。

③ 保健活動推進員による健康チェックなど同時開催しました

今回は保健活動推進員や区役所の協力により、健康チェック・ベジチェックを、表彰式会場横のブースで実施した。表彰式終了後は、多くの方が参加されました。



臼井 孝一 氏 (新治中部地区連合自治会 会長)

コロナが5類となったことで、自治会の行事の制限が解除されました。これを受けて、地域が活性化し、地域住民の横のつながりだけでなく、災害時に助け合えるような「顔の見える関係」の構築につながったと思います。

児童・生徒は大人が思っている以上に「誰かのために何かをしたい」「自分たちも役に立ちたい」と思っていることを、私たちは受け止めサポートしていくことが肝要だと思います。

児童・生徒の皆さんに、防犯・防災のキャッチフレーズに応募していただき、自分の考えや思いを表現し防犯・防災意識を醸成し、学校との絆、親子の絆、地域との絆を深め、学校・家庭・地域と三位一体となり育てていって、成長してもらいたいと思います。そして、郷土愛を高めて次期担い手となって下さればと思います。



地区別計画推進策定委員会に参加して 森の台小 PTA 会長 近藤みどり 氏
この度は、初めて新治中部地区別計画推進会議に参加をさせていただきました。
「後継者育成」についてというテーマで、各自治会の思いや考え方や、世代別によるいろいろな意見が交わされました。

後継者というところで、自治会も PTA も互いに深刻な状況下にあることが共通点でした。様々な住民事情は PTA にも反映されることなので、地域活性化にお力添えができるようにしていきたいと思いました。

三保地区

<地区> 三保町

◆活動の概要◆ ～支え合いのできる仲間づくりのために～

三保地区では、地域の交流の機会や場を次世代へつなげていけるよう、多世代が交流できる行事や多くのスポーツイベントに各団体が積極的に取り組んでいます。

今年度の地区別計画推進策定委員会では「地域の中での支え合い活動」や「日頃のちょっとした困りごとから地域がつながっていくために」をテーマに話し合いを行いました。

令和5年12月には、「三保ちよい助プロジェクト」を立ち上げ、住民のニーズを把握し、三保地区にあった「支え合い」や「交流の場」の構築を検討しております。

キーワード

見守り・
支え合い

多世代の
つながり

交流の場

三保地区の取組紹介



◆『見守り・居場所づくり検討委員会』を毎月定例実施 ◆

●会議概要

平成29年度に、三井住建道路株式会社関東支店南関東営業所より、地域貢献の一環として会議室を提供して頂きました。その後、三保地区と当企業で会議室利用協定を結び、「みどりのわ・ささえ愛プラン」のプロジェクトチームである、『見守り・居場所づくり検討委員会』を毎月定例開催しています。

●委員会の取り組み

各自治会役員をはじめ、地区社会福祉協議会・民生委員児童委員・友愛活動推進委員の代表や緑区役所・緑区社会福祉協議会・地域ケアプラザも参加して、三保地区別計画の重点取組に則った具体的な活動等を検討しており、今年度は11回開催しました。

『見守り』については、日頃の地域活動や交流を通して、互いに顔の見える関係性をつくり、住民同士がゆるやかに見守ることができる地域を目指して議論しています。『居場所づくり』については、さんさんルーム1号館・2号館の運用状況の報告・確認を行いました。

●今後に向けて

・居場所(さんさんルーム1号館・2号館)の活用がさらに充実できるように、管理方法や周知方法等について検討していきます。



◆ 地域の中のお困りごとを地域で支え合う仕組みづくりを目指して 三保プロジェクトが発足 ◆

現在、地域のニーズ把握に向けた取組について検討しています。今後も多くの方のご意見・ご協力をいただきたいと思います。

◆ 三保町自治会見守り隊出動！ ◆

設立：平成 28 年 4 月 1 日 構成員：26 人

活動内容：三保小学校児童登下校時の見守り、三保町自治会の夜間パトロール

三保自治会会員の方々の要望で、子どもから高齢者が安心して暮らせる三保町にするために、見守り隊を立ち上げました。

三保小学校児童の登下校時に通学路の中でも交通量の多い横断歩道・信号機の無い交差点などで巡視を行っています。見守り終了後には、参加者全員が自治会館に集って、気が付いた事象について報告して意見交換を行います。

夜間防犯パトロールは、帰宅時間に合わせグループごとに行い、防犯灯の点検、人通りの少ない場所や、遅くまで公園で遊んでいる子どもなどへの声かけを行っています。



◆ 5年ぶりに開催！三保健民祭 ◆

コロナ禍と台風の影響で中止となっていた、三保健民祭を5年ぶりに開催しました。自治会対抗をやめ、競技内容も様々な立場の方が一人でも多く参加できるよう工夫し、500人を超える地域の皆さんが楽しみました。

(三保地区の保健活動推進員によるベジチェック・健康チェックブースも出展。子どもから高齢者まで100人以上がチェックに参加しました。)



◆ 三保子どもフェスタ開催 ◆

平成 11 年に「子どもフェスティバル」の名称で始まり、現在の「子どもフェスタ」に変更し、今回 21 回目となりました。

三保地区梅田産の里芋・もち米、「おやし団」が育てたさつま芋を使い、芋煮等を振る舞い、喜んでいただきました。また、地域の大人と子どもが一緒になって、ゲーム(輪投げ・ストラックアウト)や昔遊び(ビー玉・折り紙・けん玉)などをして、楽しい交流の場となりました。



山下地区

<地区>

西八朔町、北八朔町、小山町、青砥町

【活動の概要】

山下地区では、「地域のつながりや支え合いのある 誰もが元気で暮らし続けられる街をめざして」を合言葉に、地域全体で様々な取組を行っています。

今年度の地区別計画推進策定委員会では、大きな課題となっている、「地域活動の周知」や「地域活動の担い手確保」をテーマに意見交換を行いました。

今後は、その中で出たアイデアなどを参考にしながら、取組を進めていくことにしています。

担い手の発掘

地域全体で協力・連携

つながりづくり

山下地区の取組紹介

山下ささえあいバス

運行を始めて5年になりました。

火曜日から金曜日の午前中に運行しています。

主に買い物便として利用されています。

午後はグループ便として、いろんな団体の移動手段として活動しています。

山下地区はスーパーがなく、高齢になると買い物に行くのが大変になってきます。

バスには添乗員が乗っています。荷物を持ったり、

運んだりしています。車内では、顔なじみになり、情報

交換、サロンや体操教室へのお誘いなどおしゃべりが

弾んでいます。運転手、添乗員はボランティアです。

山下地区体育祭で展示しました。今年は、東京都東大和市から視察に訪れました。

他の地域から注目されている取り組みです！

これからも地域の方々の協力を得て継続ができることを

目指し、取組を進めます。



山下ボランティアセンター

【活動内容】

令和元年、高齢者世帯、一人暮らしの方を対象に枝切、草取り、電球交換、部屋掃除片付け、家具移動の5項目から始めました。

【活動を始めたきっかけ】

「ちょっとした困りごと」を持って生活をしている人を支えるボランティア活動を始めました。

【工夫しているところ】

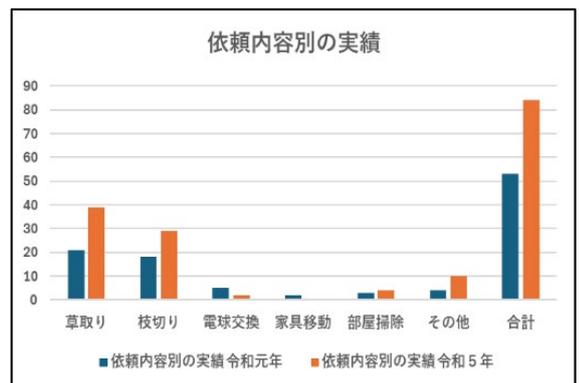
活動開始前に自治会の協力でアンケート調査を実施して活動内容を決めました。利用申し込みを電話で受け、エリア担当が下見をして作業内容などを確認しています。パンフレットを全戸配布しました。コロナ禍でも活動は継続しましたが、交流会ができませんでした。久しぶりに令和6年3月にボランティア交流会を開催しました。活発な意見交換ができました。

【活動してみても】

依頼件数は増えています。最近は室内外のこまごました内容が増えてきました。

山下ネットワークサロン

コロナ禍で活動を中止していたサロンも、令和5年度は再開が進みました。どこのサロンも概ね盛況でおしゃべりが弾んでいます。ネットワークサロン交流会も年に2回開催をしており、それぞれのサロン代表者が集まって情報交換をしています。



山下地区のすてきポイント♥ ~誰もが支え・支えられる関係~

ささえあいバスに乗ってサロンに行けること！サロンに行くと久しぶりに会う人とおしゃべりができます。ささえあいバスに乗っていつものお店で自分で見てお買い物ができることです。お買い物便には添乗員がいるので安心です。

4年ぶりに開催した新春の集いでは Mr.クッキング、ふーふートントン美味のお料理グループメンバーが腕を振るいました。とても好評でした。

新治西部地区

<地区>

新治町・十日市場町・長津田みなみ台6・7丁目の一部

【活動の概要】

新治西部地区では、「あいさつを元気に交わそう！ 笑顔あふれ 集い楽しむ新治西部」を目指して、様々な取組を進めています。

昨年度から始まった、「わくわく街歩き」も2回目を迎え、より多くの人を楽しく参加できるよう、工夫して実施することができました。

地区別計画推進策定委員会では、「一緒に活動する仲間を増やす方法を考えよう」をテーマに話し合いを行いました。また、若い世代が地域活動に参加しやすくなるようにするために意見を聞く場を設けるなどの取組も行っています。

今後も、活動する「仲間」を増やす取組について、引き続き、検討し進めていくことにしています。

交流の場

地区内の連携

担い手の発掘

新治西部地区の取組紹介

「みんなでわくわく街歩き」

昨年度から始まった新治西部連合自治会の街中を舞台にした、スタンプラリーイベント。家族や身近な人とグループを組んでどなたでも参加でき、各自治会館をスタート地点とし、公園や公共施設などのチェックポイントの中から参加者が行きたいポイントを自分で決めて散策をしました。

活動を始めたきっかけ

コロナ禍で親睦イベントが相次ぎ中止となるなか、子どもたちにこの町がどのように見えているかを町の人に知ってもらうために「子供マップ」を作成しました。作成した子供マップを活用し、密が避けられ、子供たちの生活の場を保護者やまちの人と一緒に交流しながら散策してほしいとの思いからイベントを発案しました。

今年度の工夫点

- 参加者もスタッフもみんなが楽しく過ごせるイベントであることを心掛けました。
- 安全への配慮を心がけ、交差点や危険と思われる場所にスタッフを配置しました。
- 各種団体、自治会役員など多くの人たちが協力して開催できました。
- 参加者に2次元コードを配布し、参加者が各ポイントを到着すると継続か終了の確認をし、スマートフォンを使って確認内容を送信し、状況把握をしました。創英大学、東洋英和女学院大学の学生さんにも状況把握をお手伝いしていただきました。



次回はポイントでのゲームをもっと楽しくできればと考えてます。

「新治西部わくわく運動会」

4年ぶりに連合自治会のイベントとして再開した「新治西部わくわく運動会」以前の地区対抗戦からみんなで競いながらも楽しめる運動会にリニューアル。時間を午前中までとし、コロナ禍での対策を考え、当日参加した方にも競技の手伝いをさせていただき、地域全体で作り上げる運動会となりました。



「新治町自治会ホームページ完成」

2023年3月、新治町自治会にホームページが完成しました。自治会長の言葉には「ホームページは（地域づくり）の一貫として活用していきたいと思っていますので宜しくお願いします。」とあり、現在は自治会だよりや定例会、イベントなどの発信がされています。

『新治町自治会』で検索！ URL：<https://niiharucyo.com/>



十日市場団地地区

<地区> 十日市場町(十日市場団地地区)

【活動の概要】

十日市場団地地区では、「誰もが『住んで良かった』『住み続けたい』まち十日市場」をスローガンに、様々な取組を進めています。

今年度の地区別計画推進策定委員会では、より多くの方の意見を聞くため、委員から声かけを行い、各団体から複数名参加してもらうなどの工夫も行いました。話し合いのテーマを「幅広く様々な方に地域活動に参加してもらう方法～地域を活性化するために～」と設定し、活発に意見交換を行いました。

また、委員会では、「子育て世代が集える場」の立ち上げについても、提案があり、次年度以降、準備を進めていくこととなりました。

担い手の発掘

地区内の連携

子育て支援

十日市場団地地区の取組

今年度は夏祭りや健民祭、「みんなでカレーを食べましょう」などの地域の方が集うイベントの再開、防災訓練や餅配り会、「もったいない～ありがとう」など持続している活動を行いながら、元気ある1年となりました。



▲「夏祭り」



▲「みんなでカレーを食べましょう」



◀「防災訓練」



▲「餅配り会」

「お茶飲み会」

活動目的

十日市場団地にお住いの皆さんが気軽にお集まりいただき、楽しくひと時を過ごす場です。

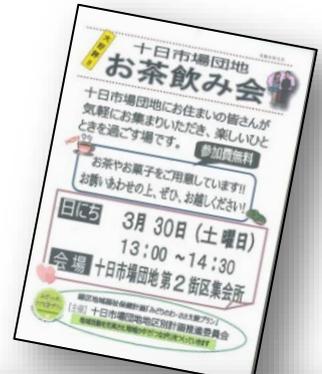
活動を始めたきっかけ

2012年の地区別計画推進策定委員会の中で住民の絆を深めることのでき、気軽集える場所として2013年3月から始めました。

今年度の活動

コロナ禍でも活動を続けていましたが、中止していたお茶菓子を食べながらの会の活動や、団地全体でのクリスマス会を再開しました。

また、地区別計画推進策定委員会の議題にも以前からあがっていた各種団体との協力として消費生活推進員や保健活動推進員の講話など各所との連携をしながら地域で楽しみながら集っています。



▲「お茶飲み会」

「ボランティアセンター」

活動目的

十日市場団地に住んでいる支援を必要とする人たちを地域でサポートするとともに、ボランティア活動に参加したい人たちの受け皿と、地域の助け合いの仕組みとして機能していることで、いつまでも支え合える地域をつくっていくこと。

活動の流れ

1. 依頼したい内容を地区ボランティアセンターの携帯に電話(平日の午前中対応)
2. 依頼を受けた方の自宅に世話焼きが訪問し依頼内容の確認
※世話焼き⇒依頼内容確認・ボランティア調整役
3. ボランティアを調整
4. ボランティアに入る日時を依頼した方に伝え、活動日にボランティアが活動する

今年度から「カットボランティア」が始まりました

美容師の資格を持っている方より、「カットボランティアの活動ができますが何かできないでしょうか」と問い合わせがあり、病気や障害のある方、介護を要する状態の方や子育て中の方などで理容所・美容所に行くことが難しい方は町の中にいるだろうという考えから、各諸関係に確認を行いながら、始めました。ボランティア開始してから、毎月数名の方から依頼があります。



霧が丘地区

<地区>霧が丘1～6丁目

◆活動の概要◆ ～「次世代まで安心して暮らし続けることができるまち」を目指した活動～

霧が丘地区では、「防犯・防災・教育 日本一の街 霧が丘」をキーワードに、様々な取組を進めています。今年度の地区別推進委員会では、移動販売の活動報告や地域で行われている見守り活動、各団体が行っている活動の担い手を増やす工夫など、様々なテーマで意見交換が行われました。

「活動できる機会・場を通してつながりを大切にするまちづくり」、「安全・安心・健康のまちづくり」をキーワードに「つながり」を絶やさないために様々な手法を取り入れ、活動を行っています。

キーワード

活動できる
機会

交流の場

健康づくり

霧が丘地区の取組紹介

盆踊り大会

毎年7月中旬に開催されていましたが、コロナ禍のため2020年より中止となっていました。コロナが5類感染症に移行したことに伴い、盆踊り大会再開の機運が高まり、地域からも多くの団体が参加を希望したため開催となりました。

心がけていること ～多世代交流～

『こどもみこし』や『霧が丘ソーラン』といった小中学生が活躍できる場があります。霧が丘は新興住宅地であり、寺社がないため伝統的なお祭りはありません。仲間と力を合わせておみこしをかつぐという体験をこどもたちにさせてあげたい、そしてそのことを通して多世代交流ができればとの思いがありました。また、霧が丘学園の5年生と6年生が学校で学ぶ『霧が丘ソーラン』を披露することは地域でこどもたちを育てるという気持ちにつながります。今回も多くの小中学生が参加し、盆踊りを盛り上げてくれました。

工夫したこと

『ルールを守って誰もが楽しめるお祭り』を目指しています。地域で楽しむお祭りの為に、地域にゴミが捨てられていたらどのように思われるでしょうか。そこで、準備や片付けの為に会場に集まる際には、家からゴミを拾いながら向かうことをお願いしました。そのこともあり、誰もが気持ちよく盆踊り大会を楽しむことが出来ました。



宿泊防災訓練

霧が丘では、いざという時には地域でたすけあい、災害を乗り越えるために防災訓練に力を入れています。感染防止の観点から行っていなかった宿泊防災訓練も冬から再開しました。

心がけていること ～実際に体験する～

訓練で実際に体験することで、いざという時に何をすべきかがわかり、気をつけるべき点なども前もって知ることが出来ます。過去においても、宿泊訓練を行うことで、就寝時に出入りの足音が気になることが分かり、体育館の歩くスペースにじゅうたんを敷くことで軽減するようにしました。今回の訓練では、就寝スペースの暖房確保や簡易ベッドの作成・体験、簡易テントの組み立てなどを行いました。段ボールの簡易ベッドは長椅子としても活用できるので災害時のコミュニケーションにも利用できるのではという意見も出ました。



霧が丘大運動会

半日開催から、一日開催となりました。未就学児から高齢者まで多くの方が参加し楽しむことが出来ました。地域ごとに昼食をとりご近所同士の交流も深めることが出来ました。



防犯パトロール懇親会 ～お餅つき～

コロナ禍も懇親会は継続していましたが、お餅つきは4年ぶりに行いました。その他にバーベキューもあり、準備から会食まで、楽しいひと時を過ごしました。



会食会

コロナ禍以降、お楽しみ会とお弁当の持ち帰りで活動を続けてきましたが、9月より会食を楽しむことが出来るようになりました。普段は一人で食べている方も、お仲間との昼食を楽しまれていました。



健康福祉講座 ～ズーラシアウォーキング～

コロナ禍と天候に恵まれず、5年ぶりの開催となりました。ボランティアを含め100名以上の方が参加し、霧が丘公園からズーラシアまで1時間ほど歩きました。歩いて健康づくりの一役を担うことが出来ました。



長津田地区

<地区>

長津田1～7丁目、長津田町、いぶき野

長津田みなみ台1～5丁目、6・7丁目の一部

【活動の概要】

長津田地区では、「向こう三軒両隣」をキーワードに、「誰もが安心・安全に暮らせる『福祉の街長津田』」を目指して、様々な取組を行っています。

取組は「向こう三軒両隣ともに支え合うまちづくり運営委員会」の3つの部会（「高齢者福祉部会」、「こども・子育て部会」、「長津田ささえあいネット」）の中で具体的に検討、実施しています。

今年度の地区別計画推進策定委員会では、「『向こう三軒両隣』の考え方を広めるためにはどうしたらよいか」について話し合いを行いました。今後は、そのなかで出た「若い世代も含めた広い世代と話し合う場を設ける」ことについて、具体的な取組を検討・実施していく予定です。

見守り・支え合い

子育て支援

推進組織

長津田地区の取組紹介

地区別計画策定推進委員会

目指したいまちのすがた

**向こう三軒両隣、様々な世代がおたがいさまでつながる長津田のまち、
笑顔と元気は地域の宝、いいよね長津田！希望のまちへ！**

第1回：①あなたの考える「向こう三軒両隣」とは？

②「向こう三軒両隣」の考え方を広めていくためには？



第2回：経過の共有、
今後の取り
組みについて



手と手を取り合う食支援

- 食材の寄付が多く、活動の拡がりが進んでいる。
- 高齢者や、ひとり親世帯など、必要な方々に支援ができています。
- ボランティア希望の方も多く、このような動きが他の活動に波及していけば。



移動販売

- スーパーまで行くのが大変な方が近くで買い物ができ、喜ばれている。
- 近隣住民同士の繋がりが減ってきていたが、移動販売がきっかけで交流が生まれている。
- 普段買いに来ている人が来ていないことに気付き、安否確認に繋がった。緩やかな見守り合いの場になっている。



長津田まつり

- 長津田まつりでフォトコンテストを実施。美しい長津田のまちを改めて実感する機会になった。
- 長津田歴史探訪スタンプラリーを行い、親子など多くの参加があった。地域を知ってもらうことができた。
- 交流によって、顔見知りの関係になる事の大切さを実感できた。



長津田子育ておしゃべり会

- 長津田地区内の子育て支援者、サークル、行政、区社協が集まり情報共有することにより、ネットワークづくり、地区懇談会へのきっかけとなった。



▲井上委員長

地区別計画推進策定委員会の中で、長津田ってどんなまち？忙しくてなかなか地域活動に参加しにくい子育て世帯や若い世代へ、このまちの将来についてなど、自由な話ができる場を設けていきたいという意見があがりました。今後、地域の懇談会をイメージして、開催に向けて実行委員会を立ち上げ、具体的に取組んでいきます。



第3章 区域計画

●「区域計画」の推進について

(1) 区域計画とは

区域計画は、地区別計画と連携して、各地区が共通で抱える課題の解決や地区の先駆的な取組事例の拡充を目指します。

区域計画 重点項目とその取組内容

重点項目 A 地区別計画を支える取組

各地区共通の課題に対する区・区社協・地域ケアプラザの取組を掲載しています。

A-1 地域活動の担い手・人材の確保及び育成

地域活動の担い手の確保・育成のため、関係機関と連携した講座や研修、交流会等を通じて、ボランティアの交流や地域活動につながるコーディネートが進められるよう、必要な支援等に取り組みます。

▶ 関連: 推進の視点 1

A-2 地域活動団体の運営支援

地域活動の立上げや運営にあたって必要な支援制度や好事例等について情報提供を行うとともに、地域活動団体の交流を促進し、団体間のネットワークの構築・強化に取り組みます。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

A-3 地域の活動及び交流の機会・場づくり

地域で身近につながる機会・場づくりのため、地域活動が継続的に行われるよう支援するとともに、活動・交流の場としての地域資源の発掘等に取り組みます。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

A-4 地域活動の情報伝達の工夫

地域活動に関する情報を効果的に広く届けられるよう、情報伝達手法の工夫について学ぶことのできる機会を設けるとともに、区・区社協・地域ケアプラザのほか、関係機関や企業等の様々な広報媒体を活用した情報発信を進めるなど支援をします。

▶ 関連: 推進の視点 1・2・3

A-5 地域における見守り体制の充実

身近な地域で住民同士の顔の見える関係づくりが進められるよう、日頃の地域活動や講座等を通じた見守り意識の醸成を進めます。また、地域と商店等の事業者が連携して、見守りの体制が充実するよう、取組を進めます。

▶ 関連: 推進の視点 1・2・3

A-6 多様な主体と連携・協働した地域活動支援

地域活動を進める上で抱える課題の解決に向けて、社会福祉法人やNPO法人等の地域の事業者と連携・協働して、地域活動団体を支援します。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

重点項目 B 区域全体での取組

区域で取り組むべき課題に対する区・区社協・地域ケアプラザの取組を掲載しています。

B-1 データを活用した 施策推進



客観的なデータ等を活用した地域アセスメントを進め、地域とともに課題共有を行いながら、必要な施策や取組の検討、実施につなげていきます。

▶ 関連: 推進の視点 1

B-2 課題解決に取り組む 推進体制づくり



専門機関が地域活動団体と連携し、区域の課題の解決に取り組むことができるよう、専門機関が参加する会議や地域活動団体の研修等の機会を活用し、ネットワーク強化に向けた取組を実施します。

▶ 関連: 推進の視点 1

B-3 様々な背景を越えた 住民相互理解の風土づくり



疾病や障害など様々な背景を越えて、地域住民がお互いを尊重し支え合えるよう、多様性の理解を深めるための取組や、当事者及びその家族同士の交流に係る取組への支援を進めます。

▶ 関連: 推進の視点 1

B-4 身近な地域で 支援が届く仕組みづくり



支援を必要とする人が適切な支援につながるよう、支援機関の役割・機能を周知するとともに、必要な時に支援機関につながり、相談等ができる機会を得られるよう、仕組みづくりや取組を進めます。

▶ 関連: 推進の視点 1・2

B-5 多様な主体と連携・ 協働した施策展開



区域の課題解決に向けて、企業や大学等と連携・協働することにより、それぞれの強みを生かしながら、区域の課題やニーズに対する取組を進めていきます。

▶ 関連: 推進の視点 1・3

推進の視点 についてくわしい
ことは、4ページにのっています。

ちろくちゃん

誰もが安心して、自分らしく健やかに暮らせる「よこはま」をみんなで作るため、まちの中を歩いて、人々を見守っています。

横浜市地域福祉保障計画のキャラクター



第4期の区域計画は、「各地区共通の課題解決のための重点項目（重点項目 A）」と「区域の課題解決のための重点項目（重点項目 B）」の大きく2つの項目で構成しています。従来の地区別の取組だけでは表面化しない個別課題の把握や解決に向けた取組を進めるとともに、重層的な地域課題を解決する仕組みづくりを引き続き進めていきます。

●各重点項目の振返り



A-1 担い手

重点項目A-1 地域活動の担い手・人材の確保及び育成

- 地域活動に携わる人材の「確保」「育成」を目的として、「みどり『ひと・まち』スクール」を開催した。
- 自治会担い手育成を目指し、役員向けに将来の役員候補者育成のヒントとなる講座を9月に開催した。
- 自治会未加入または未活動者を対象に、自治会への加入、活動を促す講座「充実人生のレシピ」を1～2月に3回連続講座で実施した。
- シニアボランティア登録研修会を開催した。
- ボランティア同士の交流会を開催、意見交換ができる場づくりを推進し、ボランティアの活躍の場として、スマホ講座開催を支援した。

重点項目A-2 地域活動団体の運営支援

重点項目 A-3 地域の活動及び交流の機会・場づくり



A-2 運営支援



A-3 機会・場

- 横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業(サービス B、※)で竹山 KUSC、霧が丘がらっとほーむの2団体から新規申請があり、区役所、緑区社会福祉協議会、地域ケアプラザが連携して支援を行った。
※ 横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業：ボランティアを始めとした地域住民の方々が要支援者等の方に向けた介護予防・生活支援の活動を行う場合の活動費を補助
- 高齢者の定期的な集いや活動ができる場として、レッツゴーエクササイズや白山健康マージャンが立ち上がり、活動が継続できるよう支援した。
- ハマボノ mini(※)や各種助成金の活用提案など団体に対して必要な支援を行った。
※ ハマボノ mini: 仕事で培った経験を活かしたプロボノによる支援や、趣味・特技を活かし、ボランティアとして地域団体を支援する事業
- みどりのわ・ささえ愛プラン講演会において、緑区で活動する活動団体の皆さんに「みんなが活躍できる地域づくりのヒント」をテーマとしたパネルディカッションを行った。



A-4 情報

重点項目A-4 地域活動の情報伝達の工夫

- 各機関において、ホームページをはじめ、LINE、Facebook などの SNS の活用による情報発信を工夫した(※)。
※地域ケアプラザでは新たに 2 館(十日市場地域ケアプラザ、中山地域ケアプラザ)で LINE による広報・情報提供を開始(全 3 館、霧が丘地域ケアプラザは令和 3 年度開始)。
- メールマガジンで子育てサロンやイベント等の子育て情報を発信した。
- 緑区社会福祉協議会と区が協働で生活困窮に係る相談窓口記載カードを作成し、関係機関に配架した。
- 地域活動に関する情報収集を積極的に行い、「ヨコハマ地域活動・サービス検索ナビ」の更新を進めるとともに、活用について周知を行った。



A-5 見守り

重点項目A-5 地域の見守り体制の充実

- 地域の見守りをテーマに地域ケア会議を開催。移動販売を実施している企業にも参加してもらい、ゆるやかな見守りの必要性等共有を行った。
- 配食ボランティアから出た見守りにおける課題について、地区社協等地域の会議で共有を行った。
- 各地区でエンディングノートの書き方講座を開催し、自分らしく生きるための終活について紹介した。
- 事業者向けにスマホ相談会、ガイドツアー講座、認知症サポーター養成講座などを開催した。(対象事業者:NPO 法人、介護事業者所、金融機関、商店会など)
- 新たに 1 地区が区と協定を締結し、災害時要援護者支援事業を推進した。
※本市においては、横浜市防災計画の定めるところにより、特別避難場所の指定など要援護者に配慮した震災対策を講ずるとともに、要援護者名簿の提供等をとおして、地域の取組支援を推進。地域においては、自助・共助の取組として、自治会町内会等の地域の自主防災組織により、要援護者の名簿づくりや防災訓練の実施など様々な取組を推進。
- 民生委員向けに「見守りガイド」、「情報シート」を作成、配布するとともに、それらを活用した訪問や見守りを民生委員とともに行った。
- 地域での移動販売の導入支援を行うとともに、移動販売の機会が「つながりづくり」や「ゆるやかな見守り」につながるよう必要な支援を行った。

重点項目 A—6 多様な主体と連携・協働した地域活動支援
重点項目 B—5 多様な主体と連携・協働した施策展開



A-6 連携による支援



B-5 協働による推進

- 子どものまちづくりイベント「Mini Mini Midori プラス SDGs」(※)で、株式会社村田製作所、東洋英和女学院大学、無印良品 500 ビーンズ中山がワークショップを実施し、横浜信用金庫中山支店は子ども実行委員が運営する銀行運営に協力した。
※「子どものまち」は、子ども主体のまちで、区役所、学校、銀行などのほか、様々なお店が出現し、ジョブセンターで仕事を見つけて働き給料をもらうと、独自通貨で買い物をすることができ、経済の循環を体験できる。子ども実行委員は、まちの仕組みを考える中心メンバーであり、子どものまちづくりイベントの当日は、店舗の責任者として活躍。令和5年度から、まちの商品やサービスから SDGs や脱炭素を体感できるイベントとして実施。
- 花王グループカスタマーマーケティング株式会社、雪印メグミルク株式会社、ライオン株式会社等の企業と連携し、フレイル予防などの地域住民向けの講座を開催した。
- 区役所の各事業において、区内の6大学(昭和大学、東京工業大学、東洋英和女学院大学、横浜創英大学、神奈川大学、横浜商科大学)と連携し取組を進めました。
取組例: ようこそ英和の森へ！緑いっぱい🍁わくわく造形あそび、子どものまちづくりイベント、おもしろ科学実験教室、土曜日のおはなし会スペシャル(読書活動)など

重点項目B—1 データを活用した施策展開



B-1 データ活用

- 「緑区デジタル活用促進事業」(※)として、区内の連携団体とともに、ICT 普及の取組を推進した。
※令和4年度から区内の活動団体や各施設、緑区が連携してより多くの区民の皆様がスマホ・パソコンを活用するきっかけとなる事業を実施(事務局はNPO法人みどりITコミュニティサポーターズ(MICS))。
- 令和5年度「緑区地区別暮らしのデータ集」(※)を作成し、各地区の特長や課題を見える化し、地区支援に活用するとともにホームページに掲載した。
※緑区地区別暮らしのデータ集:令和 2 年度の国勢調査の結果等から、地区毎の人口数や世帯数の推移等をグラフ化するとともに、視覚的に見やすいように様々なデータを重ね合わせたものをマップに反映。
- ハマボノ(※)を活用してアンケートを実施し、地域イベントの開催を支援した。
※ハマボノ:現役社会人からシニアまで、多様な経験を持つ参加者とともに、市内で高齢者福祉に資する活動を行っている地域活動団体を支援する事業。
- 子育てに関するアンケート結果を、関係者の会議(子育て支援連絡会)で共有し、課題抽出などに活用した。



B-2 ネットワーク

重点項目B-2 課題解決に取り組む推進体制づくり

- 子育て支援の関係機関や支援者が参加する「子育て支援連絡会」を地区別に開催し、令和4年度に実施した「子育て支援に関するアンケート」結果及び各地区の子育て支援の現状を共有した。また、子育て支援連絡会全体会を開催し、令和6年度以降の取組について検討を行った。
- 民生委員児童委員協議会の定例会で認知症の理解と対応に関する研修を開催した。
- 保健活動推進員が主となり、各地区で健康チェックを開催した。
- 区レベルセーフティネット会議を開催し、ひきこもりやヤングケアラーを始めとした複合的な課題についての対応策の検討及び関係機関の関係づくりを構築した。
- 困窮状態に陥らないための予防の観点から、ゲーム感覚で学べる子ども向けの家計講座を開催した。



B-3 相互理解

重点項目 B-3 様々な背景を超えた住民相互理解の風土づくり

- 小学校(※)や商店、自治会等に向けて認知症サポーター養成講座を開催。
※山下小学校では、障害者スポーツを体験する福祉教育を実施。東本郷小学校では、高齢者と一緒に誰もができる新しいスポーツを考えるプログラムを行い、交流を図った。
- 特別支援学校と協働して、施設内で作品展示を実施するなど、障害理解につながる取組を実施した。
- 外国人向けの転入者セットを区役所戸籍課窓口で配布するとともに、日本の小学校に入学する児童と保護者を支援するプログラムのチラシを配布。
- 障害事業所と連携して、区内の中学校で自主製品の試食や障害理解の講座を行った。



B-4 支援が届く

重点項目B-4 身近な地域で支援が届く仕組みづくり

- 広報よこはま区版に子育て情報や生活困窮制度全般の特集記事を掲載・周知した。
- 区内 6 施設(※)で食品回収ボックスの常設を継続し、フードドライブを行った。また、寄せられた寄付品を相談のあった世帯への支援に活用した。
※緑区役所、資源循環局緑事務所、白山・十日市場・長津田地区センター、ハーモニーみどり
- 地区社協などの地域の活動団体とともに食品等のお渡し会を行うとともに、活動継続に必要な支援を行った。
- 定員を超える参加希望のあった「元気づくりステーション」(※)を2部制にして、多くの参加者を得た。
※身近な地域で、参加者本人と仲間、地域も元気にする自主的な活動グループ。健康体操、ウォーキング、健康マージャン等、市内 300 か所以上のグループが活動中。
- 幅広い世代に健康づくりについての意識を高めてもらえるよう、親子で健康チェックができる催しを実施した。
- エンディングノートを活用したり、多くの区民に関心を持ってもらえるよう内容を工夫した講座を実施することで、成年後見などの制度についての周知を図った。
- 関係者や関係機関の会議や研修などで困窮者支援制度の説明を行うことで、支援者間のつながりづくりを進め、ネットワークを広げる取組を行った。

参考指標について

「第4期みどりのわ・ささえ愛プラン」では、それぞれの重点項目の進捗状況をはかるために指標を設定し、年度ごとの振り返りの際に活用しています。

重点項目 A 地区別計画を支える取組

重点項目 A-1 地域活動の担い手・人材の確保及び育成

〈参考指標〉

ボランティア活動登録数 638件（令和6年3月末）

重点項目 A-2 地域活動団体の運営支援

〈参考指標〉

「活動・交流の場」の新規開設支援件数 32件（令和6年3月末）

事例の周知…緑区社会福祉大会の第2部として、「みんなが活躍できる地域づくりのヒント」をテーマに講演とパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションには、区内の活動者に参加していただき、活動を始めたきっかけや仲間を増やすための工夫についてお話しいただき、参加者と共有することができました。

重点項目 A-3 地域の活動及び交流の機会・場づくり

〈参考指標〉

住民主体の活動・交流の場の把握数 686件（令和6年3月末）

重点項目 A-4 地域活動の情報伝達の工夫

〈参考指標〉

地域情報発信の仕組みづくり…従来からの媒体については、一覧性を高め、わかりやすくまとめる工夫をすることで地域活動の情報を発信することができました。

また、区内の各施設で、SNSを活用した、地域情報の発信が進みました。

重点項目 A-5 地域における見守り体制の充実

〈参考指標〉

見守りに関する地域住民との会議開催回数 236件（令和6年3月末）

重点項目 A-6 多様な主体と連携・協働した地域活動支援

〈参考指標〉

多様な主体と連携した地域活動支援件数 79件（令和6年3月末）

重点項目 B 区域全体での取組

重点項目 B-1 データを活用した施策推進

〈参考指標〉

データ活用会議実施回数 109件（令和6年3月末）

重点項目 B-2 課題解決に取り組む推進体制づくり

〈参考指標〉

ネットワーク構築に資する会議等開催回数 112件（令和6年3月末）

重点項目 B-3 様々な背景を越えた住民相互理解の風土づくり

〈参考指標〉

多様性理解・啓発の取組実施回数 98件（令和6年3月末）

重点項目 B-4 身近な地域で支援が届く仕組みづくり

〈参考指標〉

成年後見制度に係る相談支援件数 110件（令和6年3月末）

生活困窮者自立支援に係る相談しやすい体制や風土づくりの取組…支援機関が集まる区レベルのセーフティネット会議を2回開催（第1回57名、第2回53名出席）し、生活困窮者自立支援制度の周知及び関係機関同士の継続的な連携の強化を図りました。

また、若い世代の相談者も増えていることからSNSを活用し、制度周知に関する投稿を実施しました。

重点項目 B-5 多様な主体と連携・協働した施策展開

〈参考指標〉

事業展開事例…区役所の各事業において、区内の6大学（昭和大学、東京工業大学、東洋英和女学院大学、横浜創英大学、神奈川大学、横浜商科大学）と連携し取組を進めました。（取組の例：ようこそ英和の森へ！緑いっぱい🍀わくわく造形あそび、子どものまちづくりイベント、おもしろ科学実験教室、土曜日のおはなし会スペシャル（読書活動）、みどりサンタプロジェクト、竹山団地プロジェクト、地域清掃活動 など）



●みどりのわ・ささえ愛プラン講演会（第42回緑区社会大会 第2部）

令和6年3月9日（土）、みどりのわ・ささえ愛プラン講演会を緑公会堂にて開催しました。今回は、緑区社会福祉大会の第2部として開催し、日頃から地域で福祉・保健などの地域活動に携わっている方々を中心に、314名の皆様にご参加いただきました。

当日の様子

当日は「みんなが活躍できる地域づくりのヒント」をテーマに、講演とパネルディスカッションの2部構成で行いました。

①講演

講師には田園調布学園大学教授で、みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会座長の村井祐一先生をお招きし、お話をいただきました。お話の中には、たくさんのヒントがありました。ポイントのいくつかをご紹介します！

■「みんなが活躍できる」ためのヒント

○「みんなが活躍できる」とは、言い方を換えれば、「排除をしない」ということ、さらには、積極的に関わろうという意欲を持つことが重要なポイントになる。

○「若い世代に参加してもらうためにはどうしたらよいか」を考える時に、現在、活動に参加している人たちのルーツを探ることが大きなヒントになるのではないか。

○人は支えられるばかりでなくて、自分ができることをして相手に喜んでもらったり、心から感謝される機会を得ることで、そこに自分の存在意義ややりがいを感じる。

○お互い様ということを重視して、参加者全員が担い手であり、主人公であるということを重視することも大切。

○地域で受け入れられ、この地域で安心して暮らすことができるという感覚が醸成されていくことが重要。

○お互いの存在や違いを認め合うことで、自分自身の成長につながっていく、社会性を磨く大切な機会を得ることができる。

○参加者も積極性をもって地域に出て、挨拶をする、自分から声をかけるなど「**能動性**」が必要。地域は、そのようにできるように「**きっかけ**」を作り、「ようこそ！」“ありがとう！”と「**迎え入れる**」スタンスを取ることも大切。

○例えば、本日のイベントなどに、あと一人連れてくると、その人が次の担い手につながっていく可能性がある。「**ちょっとしたおせっかい**」で一人連れてくる、「**あと一人キャンペーン**」を提案したい。



▲村井祐一先生

②パネルディスカッション

コーディネーターは、引き続き、村井先生にお願いしました。

パネリストには、区内で活動されている、神奈川大学サッカー部の大森西三郎さん、柏木耶汰さん、三保おやし団の久保田敏裕さん、十日市場団地地区社会福祉協議会の古屋紀美代さんをお招きしました。活動されている方ならではの貴重なお話を聞くことができました。

★パネリストの皆さんへの質問

Q1：活動を始めた「きっかけ」は？

活動を続けるなかで自分にとって**プラス**になっていることは？

Q2：仲間を増やすために、どんな**声かけ**や**工夫**をしているか？



▲左から、神奈川大学 大森さん、柏木さん、三保おやし団 久保田さん、十日市場地区社協 古屋さん



▲当日の会場の様子

神奈川大学サッカー部 大森さん、柏木さん

A1：神奈川大学には、「F+1」という伝統があります。サッカーだけでなく、地域活動やボランティアを行うという伝統があり、活動が始まりました。実際にやってみると、団地に住みながら地域活動を行うのは大変でしたが、会話力があがっていることに気づいたり、人として大きく成長できたと思います。

A2：活動をする中で、各々が責任感もち始めます。自発的に活動して、喜びを見出すと声かけはいらなくなって自分たちで動く学生が増えてきます。工夫としては、「楽しそうにすること」が重要だと思っています。どんな活動も人と関わるので、楽しさを見出していくことは大切です。

三保おやし団 久保田さん

A1：「おやじの会」に入ったのがきっかけです。最初は、青少年指導員の活動に個人としてサポートに入っていました。何年か経って、子どもが卒業したタイミングでOB会的に活動したのがスタートでした。プラスになったことは、人とのつながりが増えました。飲み友達もどんどん増えていきました。

A2：おやし団の場合には、おやじの会があるので、メンバーはイコールです。お子さんが卒業してもOBも全ておやし団に入っており、受け皿になっています。魅力ある活動になるように、バーベキューをしたり、農作業体験など、毎週のようにイベントを行っています。また、一旦活動から離れても、家庭ごとのライフサイクルに合わせて、また気軽に参加できるような活動となるように心がけています。

十日市場団地地区社会福祉協議会 古屋さん

A1：(地区の)子ども会の会長になり、区の子ども会連絡会に入って、交流会に参加しました。当時の会長さんに「来年も参加していい？」と聞いたら、「ぜひ来て！あなたが来てくれるとうれしい！」と言われました。そういったことが徐々に自信につながっていき、地域で活動する度胸がついてきました。人とのつながりを今感じて生活しているので、一日一日が楽しく笑顔でいられます。それで皆さんと一緒に楽しく活動ができています。

A2：毎朝、子どもたちに声かけをしています。やりとりをしながら、人と人との気持ちをつなげていくことを心がけています。日常の会話、心のつながりを大切にしながら、「こんな行事やっているよ」というような情報発信もしています。日々の会話を大事にしながら、行事などにも参加していただくことが大切だと思い、日々の声かけを大事にしています。

緑区内の地域ケアプラザ

誰もが住み慣れたまちで、安心して暮らせる地域をつつていくための拠点として、地域の福祉・保健活動を支援し、福祉・保健サービスを身近な場所で総合的に提供する施設です。

★東本郷地域ケアプラザ

〒226-0002 東本郷5-5-6

☎045-471-0661 FAX045-471-0678



アクセス

JR鴨居駅からバスで。「東本郷地域ケアプラザ前」「東本郷町」「泉谷寺団地前」バス停下車。

★鴨居地域ケアプラザ

〒226-0003 鴨居5-29-8

☎045-930-1122 FAX045-931-2203



アクセス

JR鴨居駅から
・バスで。
「鴨居町バス停」下車。
・徒歩で約10分

★中山地域ケアプラザ

〒226-0019 中山2-1-1 (ハーモニーみどり内)

☎045-935-5694 FAX045-935-5695



アクセス

中山駅（JR・市営地下鉄）から徒歩7分

★山下地域ケアプラザ

〒226-0021 北八朔町218-13

☎045-931-6275 FAX045-935-3883



アクセス

・中山駅（JR・市営地下鉄）からバスで。「寒谷戸」バス停下車。
・市営地下鉄川和町駅から徒歩20分

★十日市場地域ケアプラザ

〒226-0025 十日市場町825-1

☎045-985-6321 FAX045-985-6325



アクセス

JR十日市場駅から徒歩3分

★霧が丘地域ケアプラザ

〒226-0016 霧が丘3-23

☎045-920-0666 FAX045-922-6611



アクセス

JR十日市場駅からバスで。「中丸入口」「萱場公園入口」バス停下車。

★長津田地域ケアプラザ

〒226-0027 長津田2-11-2

☎045-981-7755 FAX045-981-7575



アクセス

長津田駅（JR・東急）北口から徒歩5分





プランの詳細は、ホームページをご覧ください。

みどりのわ・ささえ愛プラン

検索



第4期 緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」
 令和5年度 推進状況報告書
 <2024（令和6）年6月発行>



～編集・発行～

横浜市緑区役所 福祉保健課 事業企画担当
 〒226-0013 横浜市緑区寺山町 118
 電話 045-930-2304 FAX 045-930-2355
 電子メール md-fukuhoplan@city.yokohama.lg.jp

社会福祉法人 横浜市緑区社会福祉協議会
 〒226-0019 横浜市緑区中山 2-1-1（ハーモニーみどり内）
 電話 045-931-2478 FAX 045-934-4355
 電子メール midori00@yokohamashakyo.jp